

Y16a 生成 AI を活用した火星での生活の動画作成ワークショップの実践と分析

○青木成一郎（京都情報大学院大学/京都大学）， 小林信三（コンソーシアム TIES），小林圭吾（アクシブナレッジ合同会社）

NASA 主導のアルテミス計画を始め、火星へ人類を送り込むプロジェクトが進められている。月についても、過去をさかのぼれば、アポロ計画による人類を月へ送る国家プロジェクトが進められ、現在は、官民合同で月開発が進められている。この流れを考えれば、民間企業による協力も踏まえて、将来、特に現在の中学生や高校生が大人になった頃に火星に人が住む時代が来ることも考えられる。そこで、将来の活動の場としての宇宙を職業選択の上で意識してもらうことを目的として、火星に住む人の物語のパラパラ動画を作成するワークショップを行った。参加者として、宇宙に興味を持ちつつもそれほど詳しくない中高生を想定したため、一日で動画を作成できるようにストーリー作成を補助する点で生成 AI を活用した。また、生成 AI に頼り過ぎない補助ツールとしての活用方法を体験を通して知ってもらうことも目的とした。そのため、グループで考えをまとめてから生成 AI を活用する、グループワーク形式のワークショップとした。物語生成アルゴリズムを実装した開発中のシステムを使ってシステムと対話をしながら、各過程で生成 AI が作成した下書きへグループの考えを反映して修正し、ストーリーのナレーション原稿を完成する方法を採った。さらに、AI 編集ソフトウェアを使って、その原稿を元に最終成果物としてのパラパラ動画を完成させた。グループワークは、中高生 3 名のグループを 2 つと大人 4 名のグループ 1 つで行ったが、開始前に講師が同じ情報を提供したにも関わらず、完成した動画はグループごとに異なり、また、中高生グループと大人グループで傾向が大きく異なることが、動画のナレーション原稿の KH Coder によるテキスト分析から分かった。本講演ではワークショップの内容や動画及び分析結果について紹介する。